（様式１）

令和３年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号）021	提案機関名	横浜農業協同組合

要望問題名　黒毛和種肥育牛における枝肉重量とロース芯面積の改善

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

黒毛和腫肥育牛において枝肉重量は収益性にもっとも直結するものである。
また枝肉重量、ロース芯面積、皮下脂肪、バラの厚さに加え、これらから算出される歩留まり基準値が枝肉価格に反映されており、これらの形質を改善することが肉用牛農家の収益性向上につながる。

そこで筋肉を作るタンパク質給与に着目し、飼料中タンパク質の適正な給与割合と給与方法を検証し、枝肉重量とロース芯面積を改善する飼料給与方法の開発を提案する。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター　④自然環境保全センター

備　考

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	大家畜グループ
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可		

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

対応の内容等

ご提案のありました黒毛和種肥育牛への飼料中タンパク質の適正給与については、日本飼養標準・肉用牛で乾物中粗タンパク質含量は12%程度が適当とされており、発育に応じた要求量が設定されています。また、分解性タンパク質やバイパスタンパク質の利用による肉質向上等が報告されていますが、実用的な技術は得られていない状況です。新たな給与方法の開発に向けては、多頭数を用いた精度の高い試験設計が必要であり、当所単独での試験実施は困難と考えられますので、農研機構や他県試験機関等からの情報収集に努めます。なお、農家における飼料給与の見直しについては普及指導課が現地にて対応します。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内

備　考

タンパク質の第一胃内分解性の違いが黒毛和種去勢牛の産肉性に及ぼす影響（浅田ら、群馬畜試研報、2006）
黒毛和種去勢牛 24 ヶ月出荷体系における肥育前期のバイパスタンパク質飼料補給が肥育成績に及ぼす影響（安部ら、日畜会報、2018）